人間植物関係学特論（二）（2単位）

担当者氏名 山口裕文

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

植物と人間との関係の歴史的発展過程の理解と植物との関わりが持つ福祉機能の利用のための理論を体系的に講述する。観賞植物、景観植物、雑草などの自然景観植物、食用植物、香源植物、儀礼植物などの活用例を鳥瞰して人々の生活に密接に関わる多様な植物の持つ癒しと安らぎ、健康促進や生活の質の向上の重要性を認識する。関係性の統合的理解と実際を確保する技術の原理を習得させる。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

人間植物関係学福祉園芸学民族植物学生物文化多様性

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	人間植物関係性の発展	人間と植物の関係性（競争・共生・共存）の発展史	人間と植物との関係性の発展過程を整理し、植物による福祉機能および癒しや安らぎへの活用例を予備調査しておく。受講生当たり一論文を読破しておくこと。
2	自然・人工景観による福祉	森林セラピーとあぜ道のもつ癒し、草遊び	
3	観賞・庭園・景観植物による福祉	花、みどり、ガーデニングでの行動と振る舞い	
4	ナルコティクス植物による福祉	嗜み料、飲料、陶酔植物の類型	
5	香源植物による福祉	香料香辛料植物、東西香り文化	
6	民家庭園とホームガーデンにおける福祉	緑陰樹、落葉、果物の季節	
7	儀礼・宗教植物による福祉	仏花、祝花、供花の多様性	
8	植物活用の地域性	癒し植物の原産地での発展と多様性中心	
9	植物活用の場の設計	住環境における生活文化活用の計画	
10	植物活用の評価原理	植物活用技法の評価手法と原理	
11	植物活用の発展	現代社会における発展事例	
12	植物活用の地域複合	癒し植物の地域的集中、花と木の文化センター	
13	植物活用の文化複合	植物活用要素の体系と高度化	
14	植物活用の連携	自然活用や動物活用との連携	
15	総合討論	総括	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

バイオセラピー学入門（講談社）、栽培植物の自然史Ⅰ・Ⅱ（北大出版会）等

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

授業レポートを毎回提出させ、執筆内容（知識、論旨等）によって総合的に評価する。

◆オフィスアワー

授業期間中の火曜日 13時より 14時

◆その他受講上の注意事項